

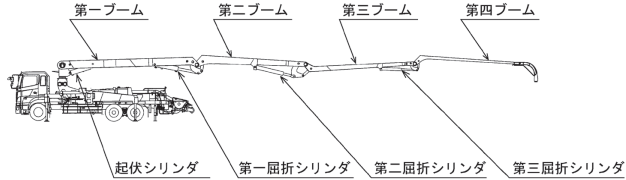
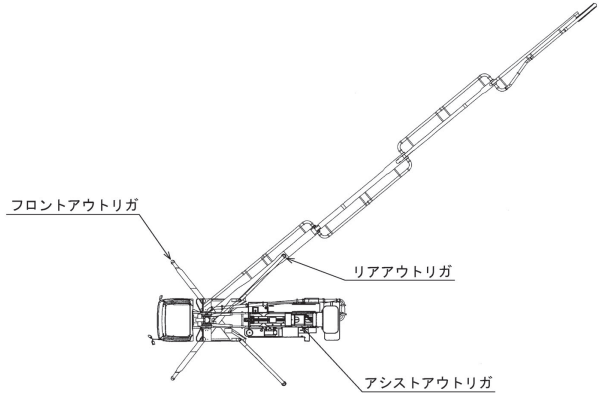
極東開発工業

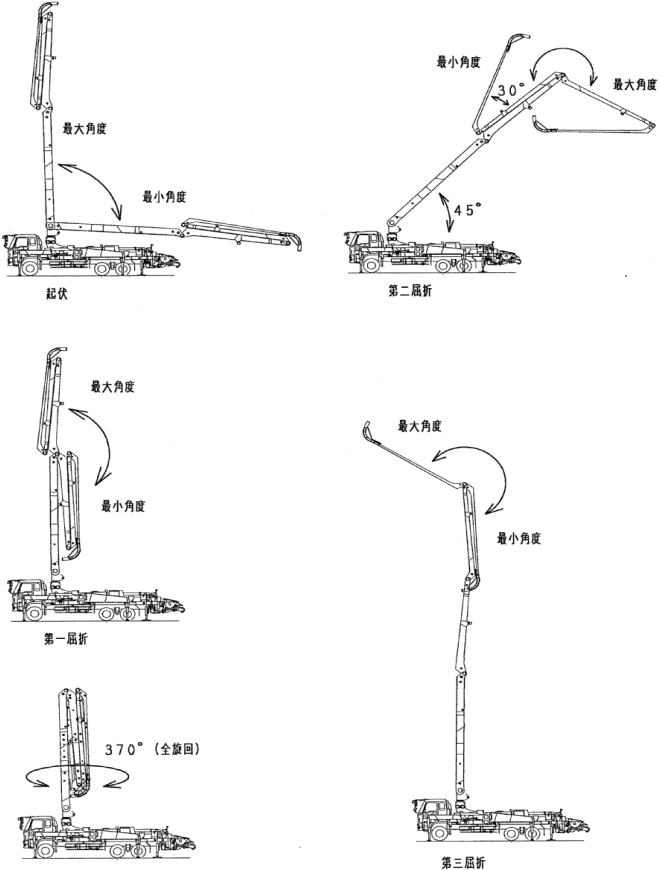
適用範囲		モデル名		PH80A-26C	
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ
			最大吐出量	m <sup>3</sup> /h	80(65)
			最大吐出圧力	Mpa	2.1(2.5)
			アーム最大地上高	m	25.7
適用号機		19P09-0013~			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	-	
		ローター回転数	回/min	28±1	
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1800 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1775 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(作動油温度)	(°C)	( 50±10 )	
	カクハツウチ 攪拌装置	回転速度	min <sup>-1</sup>	40±3	
		チェーンのたわみ	mm	20・チェーン中央	
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1800 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1775 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(作動油温度)	(°C)	( 50±10 )	
	真空ポンプ	圧力設定値	MPa	0.083	
		(設定値到達時間)	(min)	( 20分以内 )	
圧力降下許容量		MPa	0.007		
(保持時間)		(min)	( 60 )		
	Vベルトのたわみ	mm	<電動モータ駆動>		
作業装置	シリンダー 自然降下量	ブーム(1)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(2)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(3)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(4)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(5)シリンダー	mm	-	
	(測定時間)	(min)	( 10 )		
	(作動計測条件)		( - )		
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[ 図 No.1 ]		
	☆ ブームシリンダー 作動時間	ブーム(1)	伸び 縮み	sec sec	65±10 75±10
		ブーム(2)	伸び 縮み	sec sec	75±10 70±10
ブーム(3)		伸び 縮み	sec sec	50±10 90±10	
ブーム(4)		伸び 縮み	sec sec	30±10 40±10	
ブーム(5)		伸び 縮み	sec sec	- -	
(油圧ポンプ回転数)		(min <sup>-1</sup> )		( 1800 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
(作動油温度)		(°C)		( 50±10 )	
(作業装置姿勢)	[図面No.]		[ 図 No.3 ]		
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	油圧 水圧	Mpa Mpa	
			飛距離	m	
				-	
	空圧機	吐出圧力	MPa	-	
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( - )	
	(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( - )		
	(作動油温度)	(°C)	( - )		

☆印：新車基準値を表す(参考値)

適用範囲		モデル名		PH80A-26C	
		主仕様	吸吐弁形式	-	スクィーズ
			最大吐出量	m <sup>3</sup> /h	80(65)
			最大吐出圧力	Mpa	2.1(2.5)
			アーム最大地上高	m	25.7
適用号機		19P09-0013~			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
油圧装置	☆ 油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	24.5±1	
		弁シリンダー油圧	MPa	-	
		攪拌モータ油圧	MPa	9.0±0.5	
		ブーム油圧	MPa	27.5±1	
		ACCガス封入圧力	MPa	-	
		(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1800 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1775 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )	
		(作動油温度)	(°C)	( 50±10 )	
		☆ 回転ベアリング 取付ボルトの締付	外輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	294±9.8
			内輪取付ボルトの 締め付けトルク	N・m	294±9.8
回転ボルトの交換基準	年		特記 4)		
☆ 回転作動速度	回転速度		sec	165±15	
☆ 回転作動速度	(回転作動角度)	(度)	(360・全回転)		
	(油圧ポンプ回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1800 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )		
	(エンジン回転数)	(min <sup>-1</sup> )	( 1775 <sup>+0</sup> <sub>-50</sub> )		
☆ シリンダー 自然伸縮量	(作動油温度)	(°C)	( 50±10 )		
	各垂直シリンダー	mm	0.5 以下		
	(測定時間)	(min)	( 10 )		
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[ 図 No.2 ]		
特記事項	1)ポンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うのでオペレータに異常有無を確認し異常が無ければ省略する。				
	2)可変式油圧ポンプの場合は斜板を最大に切り替えた状態とする。				
	3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。				
	4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。				

☆印：新車基準値を表す(参考値)

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p> 
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p> 

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p>
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p>